小腸の機能障害の状態及び所見

|  |
| --- |
| 3367 身長　　　　　㎝ 体重　　　　　㎏ 体重減少率　　　　％ （観察期間　　　　　　　） 　１　小腸切除の場合 　　(1) 手術所見： ・切除小腸の部位 長さ 　　㎝ 　　　 ・残存小腸の部位 長さ 　　㎝ ＜手術施行医療機関名 　　　 （できれば手術記録の写を添付する）＞ 　　(2) 小腸造影所見（(1)が不明のとき）－（小腸造影の写を添付する） 　　　　推定残存小腸の長さ・その他の所見 　２　小腸疾患の場合 　病変部位・範囲・その他の参考となる所見 　　注　１及び２が併存する場合は、その旨を併記すること。 〔参考図示〕  ３　栄養維持の方法（該当項目に○をする。） 　　①　中心静脈栄養法：・　開始日　　　　　　年　　　月　　　日・　カテーテル留置部位 ・　装具の種類 * 最近６箇月間の実施状況　（最近６箇月間に　　　　日間）

・　療法の連続性　 （ 持続的 ・ 間欠的 ）・　熱量　 （１日当たり Kcal） |
|  |  　　②　経腸栄養法：・　開始日　　　　　　年　　　月　　　日・　カテーテル留置部位 ・　装具の種類 * 最近６箇月間の実施状況　（最近６箇月間に　　　　日間）

・　療法の連続性　 （ 持続的 ・ 間欠的 ）・　熱量　 （１日当たり Kcal）③　経 口 摂 取：・　摂取の状態　　（普通食　　軟食　　流動食　　低残食）・　摂取量　　 （普通量　　中等量　　少量） ４　便の性状：（下痢、軟便、正常）　　排便回数（１日　　　回） ５　検査所見（測定日　　　　　年　　　月　　　日） 赤血球数 ／mm3 血色素量 g／dl 血清総濃度 g／dl 血清アルブミン濃度 g／dl 血清総ｺﾚｽﾃﾛｰﾙ濃度 mg／dl 中性脂肪 mg／dl 血清ナトリウム濃度 mEq／ｌ 血清カリウム濃度 mEq／ｌ 血清クロール濃度 mEq／ｌ 血清マグネシウム濃度 mEq／ｌ 血清カルシウム濃度 mEq／ｌ  |  |
|
|
|
|
|
|
|
|
|
|
|
|

 注

 １　手術時の残存腸管の長さは、腸間膜付着部の距離をいう。

 ２　中心静脈栄養法及び経腸栄養法による１日当たり熱量は、１週間の平均値による

 ものとする。

 ３　「経腸栄養法」とは、経管により成分栄養を与える方法をいう。

 ４　小腸切除（等級表１級又は３級に該当する大量切除の場合を除く。）又は小腸疾

　　患による小腸機能障害の障害程度については再認定を要する。

 ５　障害認定の時期は、小腸大量切除の場合は手術時をもつて行うものとし、それ

　　以外の小腸機能障害の場合は６箇月の観察期間を経て行うものとする。